

ダイバーシティ推進委員会から： 男女共同参画学協会連絡会の紹介

濱口 幸一^{†1} 〈東京大学大学院理学系研究科 hama@hep-th.phys.s.u-tokyo.ac.jp〉

小林 夏野^{†2} 〈北海道大学電子科学研究所 kayakobayashi@es.hokudai.ac.jp〉

1. はじめに

日本物理学会ダイバーシティ推進委員会^{*1}は、日本物理学会における男女共同参画およびダイバーシティの推進を目的とした委員会である。学会内の活動に加え、女子中高生・大学生に向けたアウトリーチ活動への協力、男女共同参画学協会連絡会を通じた政府・社会への働きかけ、男女共同参画をテーマとした国際会議に出席するなど、国内外で様々な活動を行っている。

本稿では、日本物理学会ダイバーシティ推進委員会の活動の中でも、他の学会の同様な委員会と連携して行っている活動、男女共同参画学協会連絡会に関することを中心として紹介する。

2. 男女共同参画学協会連絡会とは

男女共同参画学協会連絡会（以下、学協会連絡会）²⁾は、科学・技術の分野における男女共同参画の推進を目的とした、主に理工系の学協会からなる組織である。

日本物理学会は学協会連絡会の設立当初から重要な役割を果たしている。日本物理学会ダイバーシティ推進委員会の前身である日本物理学会男女共同参画推進委員会の設立（2002年7月）とほぼ同時に、日本物理学会、応用物理学会、日本化学会などが中心となり、理工学系の学協会に対して呼びかけを行い、2002年10月に男女共同参画学協会連絡会が立ち上げられた。^{*2} 設立当初は14の学協会、29名の参加によるスタートであったが、加盟学協会数は年々増加し、2020年には法人化もされた。この間、日本物理学会は、第2期（2003～2004年）および第17期（2018～2019年）に幹事学会を務めてきた。本稿を執筆している2024年3月時点では、学協会連絡会の正式加盟学協会は108、オブザーバー加盟学協会は12にまで拡大している。

学協会連絡会は、学協会間の連携によって男女共同参画を推進する様々な活動を行っている。主な活動としては以下のようなものが挙げられる。²⁾

- ・男女共同参画学協会連絡会シンポジウム（年1回）

- ・大規模アンケートの実施（数年に1回）

- ・政府・社会への要望・提言・声明

この他、様々なワーキンググループ活動、年に数回開催される運営委員会などがある。以下では、第3節で男女共同参画学協会連絡会シンポジウムについて、第4節で大規模アンケートについて紹介する。

3. 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

学協会連絡会では、2003年に開催された1周年記念シンポジウム以来、これまで毎年シンポジウムを開催してきた。⁶⁾ 2023年10月には第21回目を迎え、今年2024年10月には第22回シンポジウム（中央大学茗荷谷キャンパスおよびオンラインでの開催）を予定している。

ここでは、昨年10月に開催された第21回シンポジウムの一部を紹介しよう。午前中は、各学会が取り組んでいる男女共同参画活動についての情報交換を目的として、「男女共同参画活動のさらなる推進に向けて～加盟学会の好事例共有～」と題して、各学会から集めたアンケート結果について報告がなされた。^{6,7)} 物理学会ダイバーシティ委員会での取組と同様の活動（国際会議・シンポジウムへの参加、雑誌への投稿、学会での託児所の設置、学会でのランチオンセミナーなど）も多く紹介され、また、様々な課題（委員の負担増、委員会の存在が知られていないこと、託児室の様々な課題など）についても多くの学会で共有されていることが確認できた。さらに、若手研究者への発信・若手研究者と共同の活動、ニュースレターによる活動報告（活動の周知とアーカイブ）、学会での子ども連れの研究者へのサポートの例など、物理学会および物理学会ダイバーシティ委員会でも今後検討しても良さそうな好事例や工夫も多く紹介された。シンポジウムの午後には、「フィールドワーク分野のダイバーシティとインクルージョン」と題して、考古学、地球惑星科学、生態学といったフィールドワークを伴う研究分野から、研究分野の特徴や魅力、男女共同参画やダイバーシティ推進の課題や工夫などに関する講演があり、またパネル討論が行われた。午前の部と午後の部の間にはポスターセッションがあり、各学会から活動報告に関するポスター発表があった。物理学会からも毎年ポスター発表を行っている。各学会の発表アブストラクトも公開されている。⁶⁾

また一昨年2022年10月に開催されたシンポジウムは

^{†1} ダイバーシティ推進委員会委員

^{†2} ダイバーシティ推進委員会委員長

^{*1} 2023年3月に「男女共同参画推進委員会」から名称を変更した。委員会の活動や沿革については委員会ホームページ¹⁾もご覧いただきたい。

^{*2} 男女共同参画学協会連絡会および日本物理学会男女共同参画推進委員会の設立の経緯については、物理学会誌の記事³⁻⁵⁾なども参照されたい。

表1 「第五回 科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」男女共同参画学協会連絡会 (2022) アンケート解析の概要¹³⁾より引用。詳しい解析結果についてはアンケート報告書¹³⁾をご覧ください。

結果のポイント
・ 役職の推進度を表す(役職指数)はほとんどの機関・年代で男性よりも女性が低く、改善の傾向はほとんどない。
・ 講師以上の大学・高専等教員の女性比率は伸びておらず新規採用・定着及び昇進が進んでいない。
・ 男女の所得格差はどの職位でも依然と存在し、改善傾向が見られない。
・ 子どもの数は、男性では2人、女性では1人と、男女で2倍もの大きな差が依然とある。
・ 女性では年取と子どもの数とに顕著な相関はないが、男性では年取に比例して子どもの数が増加。子どもが少ない理由には女性が時間的な負担、男性が経済的な負担を挙げている。
・ 任期・契約期間付き職の在職年数は女性の方が長い傾向。今回の調査で、男女ともに「10年以内」が6%と激減。これは、改正労働契約法(無期転用ルール等：平成25年4月1日施行)によるいわゆる「雇止め」の影響とみられ、人材の流出が懸念される。
・ 任期付き職の女性で「育児休業制度があったが対象外であった」との回答が多く任期の有無で明らかな差異がみられ、育児休業の取得要件が、任期付き職に適合していない。

「男女間の積極的格差改善措置(女性限定公募・クォータ制など)について考える～より公平な社会の実現を目指して～」というテーマで開催された。日本弁護士連合会(弁護士会)におけるクォータ制の導入の紹介など、女性の積極的な登用や男女間格差改善のための活動に関する講演およびパネル討論が行われた。こちらも資料や報告書が学協会連絡会のホームページに公開されているので、⁶⁾ 興味のある読者は参照されたい。

4. 大規模アンケート

男女共同参画学協会連絡会ではこれまで、2003年、2007年、2012年、2016年、2021年に科学技術系専門職における男女共同参画実態に対する大規模アンケート(以下、大規模アンケート)を行っている。このアンケートは参加する学会全ての会員を対象として行うアンケートであり、不安定な研究者雇用に関するデータベースとして大変重要な役割を担っている。これまで行われたアンケート結果から様々な要望や提言が行われており、⁸⁾ 男女共同参画のみにとどまらない役割を果たしている(例えば学振RPDなど⁹⁾)。また、データベースは研究資料として使用も可能であり、申請すれば各学会ごとの結果を使用することも可能である。物理学会でも過去に解析がなされ、物理学会誌で報告がなされている。^{10,11)} 今年2024年に応用物理学会では春季学術講演会においてアンケートに関して新たな解析結果を含めた内容のシンポジウムが行われている。¹²⁾

直近の2021年の大規模アンケートでは、本稿著者の小林もアンケート解析ワーキンググループの一員として貢献した。表1に、そのアンケート解析の概要から「結果のポ

イント」を抜粋して紹介する。

ここに書いた以外にも、報告書の中には胸が締め付けられるような体験談の記述もあり、(任期付き雇用なので育児が取れず乳児を連れて研究したなど)、制度改革の必要性が体感できるかと思われる。会員の皆様にも是非この報告書を実際に読んでいただきたい。

また、このアンケートの回答を見ると女性の比率が高く、共同参画への意識に対する男女差が大きいことがわかる。しかし、アンケートを元を実現している政策は多岐にわたり、子育てに関することなど、男性研究者にとっても重要な制度変革(育児制度の充実など)にもつながるので、男性研究者も積極的にアンケートへの参加、さらに解析・提言グループに参加していただければ幸いである。

5. おわりに

本稿では、ダイバーシティ推進委員会が関わる活動の一貫として、男女共同参画学協会連絡会を紹介した。男女共同参画やダイバーシティの推進には、一人ひとりの小さなアクションが大きな力となる。第4節で紹介した大規模アンケートには、物理学会からも多くのご協力をいただいていた。次回のアンケートでも多くの会員の協力を求めたい。一方、第3節で紹介したシンポジウムへ参加したことがある会員は少ないのではないだろうか。シンポジウムはオンラインでも参加可能であり、家で寝そべりながらの気軽な参加も大歓迎である。今年2024年10月12日(土)にシンポジウムの開催を予定しており、会員の皆様の積極的な参加を心からお待ちしております。

参考文献

- 1) 日本物理学会ダイバーシティ推進委員会 ホームページ <http://danjo.jps.or.jp>
- 2) 男女共同参画学協会連絡会 ホームページ <https://www.djrenrakukai.org>
- 3) 日本物理学会男女共同参画推進委員会, 日本物理学会誌 **58**, 873 (2003).
- 4) 井上順一郎, 日本物理学会誌 **62**, 211 (2007).
- 5) 森 初果, 日本物理学会誌 **69**, 349 (2014).
- 6) 男女共同参画学協会連絡会 主催シンポジウムなど <https://www.djrenrakukai.org/symposium1.html>
- 7) 「男女共同参画活動のさらなる推進に向けて～加盟学会の好事例共有～」日本生態学会, 日本応用数理学会, 第21回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム, 2023年10月14日, 東京大学.
- 8) 男女共同参画学協会連絡会 要望・提言・声明 https://www.djrenrakukai.org/proposal_request.html
- 9) 坂東昌子, 日本物理学会誌 **74**, 304 (2019).
- 10) 江尻 晶, 日本物理学会誌 **69**, 795 (2014).
- 11) 佐野幸恵, 日本物理学会誌 **73**, 512 (2018).
- 12) 応用物理学会 春季学術講演会 一般公開 D&I シンポジウム https://doi.org/10.11470/oubutsu.93.8_503
- 13) 「第五回 科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」 男女共同参画学協会連絡会 (2022) <https://www.djrenrakukai.org/enquete.html>

(2024年5月2日原稿受付)